



PPI（プロトンポンプ阻害薬）の長期投与で低マグネシウム血症に注意 — 添付文書改訂

2026年7月14日、全てのPPI製剤（内服・注射）およびP-CABの添付文書に、重要な基本的注意および重大な副作用欄が新設され、「低マグネシウム血症」に関する注意喚起が明記されました。

改訂の概要

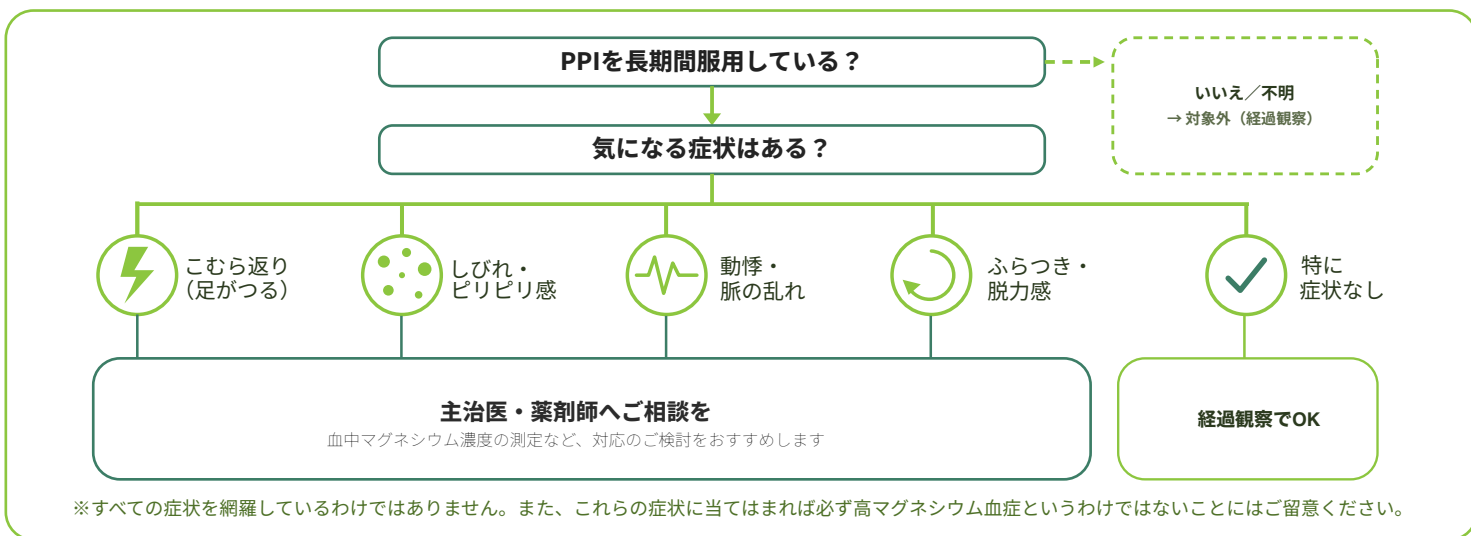
長期投与により低マグネシウム血症（QT延長・痙攣・しびれ等を伴う）のおそれあり。定期的な血中Mg値測定を推奨。

※改訂前後の全文比較はWeb版（QRコードから）でご覧いただけます

対象医薬品

エソメプラゾール（ネキシウム）／オメプラゾール／ボノプラザン（タケキャブ）／ラベプラゾール（パリエット）／ランソプラゾール（タケプロン）、タケルダ配合錠、キャブピリン配合錠、ボノサップ／ボノピオンパックなど、全てのPPI・P-CAB含有製剤

気づきチェックフローチャート



薬局としてのポイント

- ✓ 服薬指導時に症状の有無を確認
- ✓ 必要に応じて血中Mg値測定を処方医に提案
- ✓ NSAIDs/アスピリン併用、ピロリ除菌後などの漫然投与例には特に注意

在宅・地域連携コーナー

在宅の現場で気づけることケアマネジャー・訪問看護のみなさまへ

上のチェック項目に当てはまる変化に気づいたら、主治医や薬剤師までご一報ください。年のせいと見過ごされがちな低マグネシウム血症の、早期発見のカギになります。

Web版では

- ▶ 対話形式チェック／AI解説動画
- ▶ 改訂前後の全文比較



発行：メトロ調剤薬局

参考文献：厚生労働省 医薬安発0714第1号

本紙は印刷してご活用いただけます。
ホームページ（QRコード）では詳細版をご覧いただけます。

添付文書改訂